

テーマ別評価

---

# 福祉車両の整備事業への 補助

公益財団法人JKA

---

# 1. JKA補助事業における福祉車両の整備について

## 福祉車両の整備事業への補助の目的

### — JKA補助事業における福祉車両の整備について —

- ・JKA補助事業の「公益事業振興補助事業」のうち、「社会福祉の増進」のための支援のひとつとして、下記を目的とし、福祉車両への補助を行っている。
- ・現在、5種類の福祉車両の整備事業に対し支援を行っている。(下記一覧【対象となる車両について】参照)

### 目的

施設利用者の活動への支援及び生活の質の向上のために  
福祉車両整備事業への補助を行う

### 【対象となる車両について】

種類	特別装備	概要
・移送車1	助手席リフトアップ	助手席が車両の外側に回転し、低い位置まで下がる特別装備
	セカンドシートリフトアップ	セカンドシートが車両の外側に回転し、低い位置まで下がる特別装備
・移送車2	車いす仕様(スロープ式)	車両に装備したスロープにより、車いすに座ったまま乗り降りできる特別装備
・移送車3	車いす仕様(リフト式)	車両に装備したリフトにより、車いすに座ったまま乗り降りできる特別装備
・移送車4	—	送迎用乗用車(定員7~10名)
・訪問入浴車	入浴サービス設備	訪問先で入浴サービスを行うため、特別装備として「入浴サービス設備」を有する車両

# 1. JKA補助事業における福祉車両の整備について 福祉車両の整備事業への補助の目的

【対象となる車両の種類】 ※移送車4を除く

＜移送車1:助手席リフトアップ＞



＜移送車3:後部リフトアップ＞



＜移送車2:後部スロープ＞



＜訪問入浴車＞

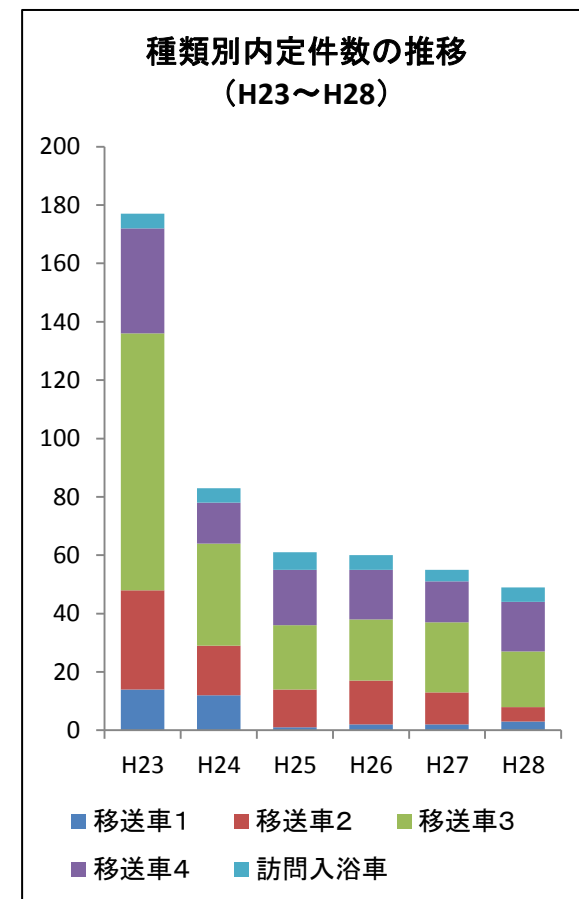


## 2. 近年の補助概況

### (1) 平成23～28年度の補助実績

補助事業年度別補助要望・内定状況の推移(平成23年度～28年度)

事業年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28
要望件数		225	179	135	198	189	157
内定件数		181	87	63	60	56	50
辞退件数		4	4	0	1	0	1
採択率(%)		80.4%	48.6%	46.7%	30.3%	29.6%	31.8%
内定金額(千円)		317,775	156,029	119,742	107,405	104,088	93,369
種類別 件数 内訳	移送車1	14	12	1	2	2	3
	移送車2	34	17	13	15	11	5
	移送車3	88	35	22	21	24	19
	移送車4	36	14	19	17	14	17
	訪問入浴車	5	5	6	5	4	5
合計(件数)		177	83	63	59	56	49



## 2. 近年の補助概況

### (2) 平成23～27年度 導入形態及び導入施設の対象者

#### ・導入形態

(件)

事業年度	H23	H24	H25	H26	H27
新規	20	6	5	4	1
増車 (複数台目)	100	52	38	34	31
更新(入替)	57	25	20	21	24
合計	177	83	63	59	56

※アンケート実施結果による

#### ・導入施設の対象者

(件)

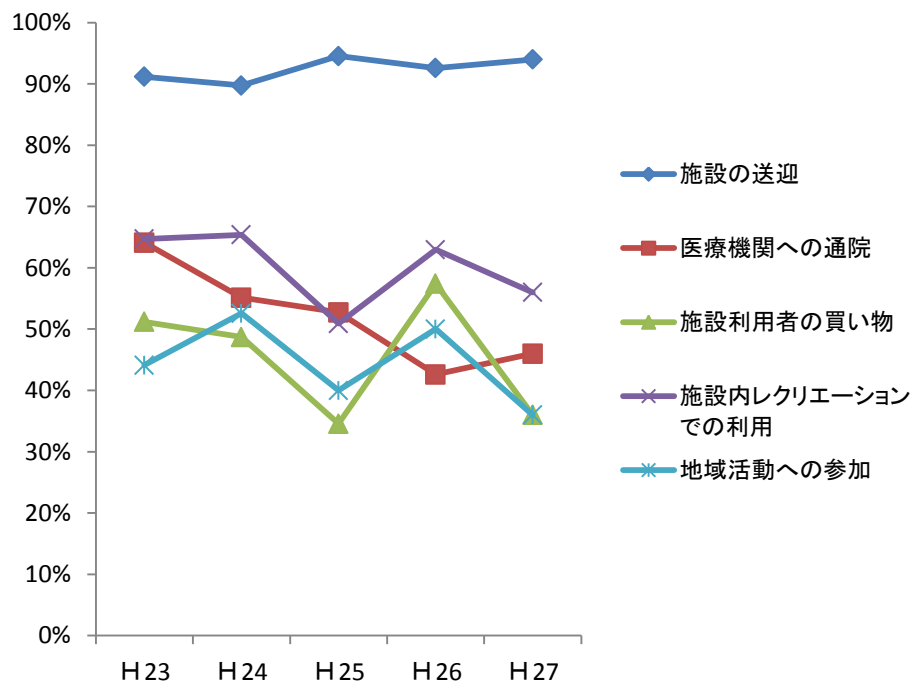
事業年度	H23	H24	H25	H26	H27
高齢者	111	55	34	34	27
障害者・児	64	26	23	24	26
子ども	2	0	1	0	2
その他	0	2	5	1	1
合計	177	83	63	59	56

※アンケート実施結果による

## 2. 近年の補助概況

### (3) 導入した福祉車両の主な用途(移送車1～4)

福祉車両(移送車1～4)の主な用途



※アンケート実施結果(複数回答可)による

【件数】

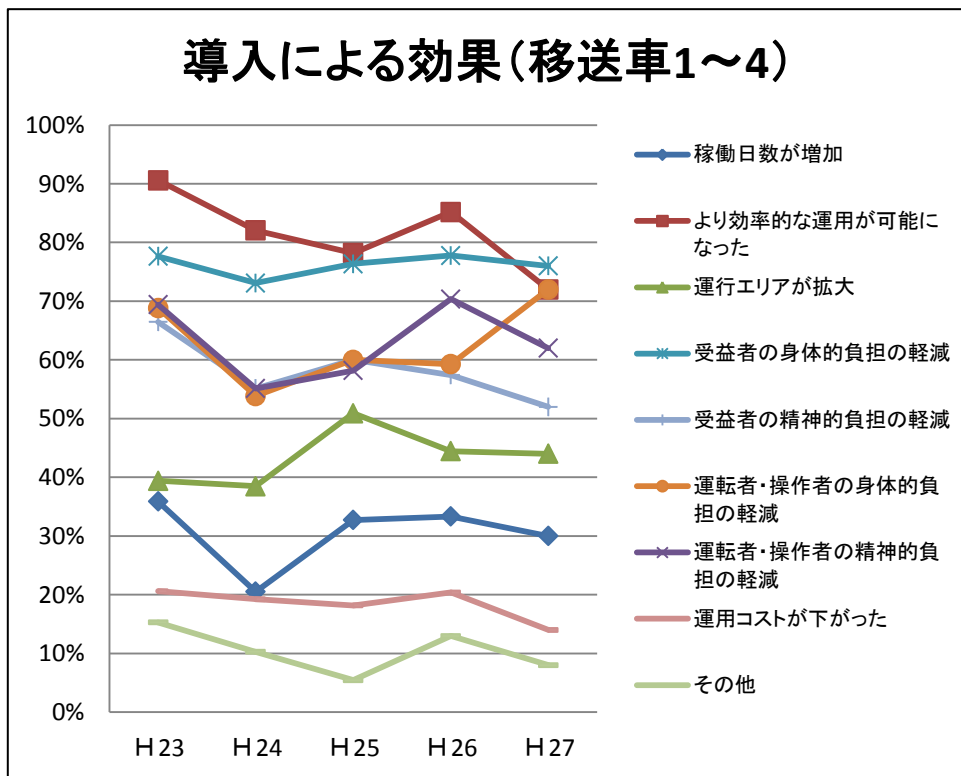
(件)

事業年度	H23	H24	H25	H26	H27
施設の送迎	155	70	52	50	47
医療機関への通院	109	43	29	23	23
施設利用者の買い物	87	38	19	31	18
施設内レクリエーションでの利用	110	51	28	34	28
地域活動への参加	75	41	22	27	18

## 2. 近年の補助概況

### (4) 福祉車両の導入効果

【導入による効果(移送車1~4)】



※アンケート実施結果(複数回答可)による

【導入による効果(訪問入浴車)】

事業年度	H23	H24	H25	H26	H27
(訪問入浴車補助台数)	(5台)	(5台)	(8台)	(5台)	(4台)
稼働日数が増加した。	80%	0%	25%	20%	0%
より効率的な運用が可能になった。 (他の車両との連携等)	60%	20%	63%	40%	50%
訪問エリアが拡大した。	40%	20%	13%	20%	0%
受益者の身体的負担が軽減された。	0%	20%	25%	20%	25%
受益者の精神的負担が軽減された。	0%	40%	25%	0%	25%
運転者・操作者の身体的負担が軽減された。	80%	60%	75%	40%	100%
運転者・操作者の精神的負担が軽減された。	20%	80%	75%	20%	75%
運用コストが下がった。	20%	60%	13%	20%	25%
その他	20%	20%	13%	40%	75%

※アンケート実施結果(複数回答可)による

- 移送車1~4では「より効率的な運用が可能になった」という回答が比較的多い。これはJKA補助事業により福祉車両の台数が増えたため、もしくは新しい車両に更新し、故障がなくなったこと等によると思われる。
- 訪問入浴車では、故障がなくなったことや浴槽の軽量化等による効果が大きいいため、特に運転者・操作者の負担減を実感している事業者が多い。

## 2. 近年の補助概況

### (5) 近年の福祉車両整備補助事業の成果

#### 【 移送車1(助手席リフトアップ) 】



#### 【利用者の声】

- 今までは車両へ移乗する際、家の玄関から車道まで土の地面の上を移動しなくてはならず、特に雨天の時は大変だったが、今度の車両では玄関脇まで車を寄せてくれるので今までよりも車への移乗がとても楽になった。
- 今まで車の助手席に乗ることがなかったが、今回、助手席に乗ってみてとても気持ち良かった。

#### 【利用者家族の声】

- 今まで片道40分ほどかけて娘の送迎をしていたが、園の送迎車が自宅まで来てくれるようになってとても助かっている。

#### 【事業者の声】

- 今まで遠距離であることや自宅までの道が狭いなど送迎上の問題により、施設の利用が制約されている現状があったが、今回様々なケースに対応できる高性能な福祉車両の導入により、送迎時の幅広い運用が可能となり、送迎に関する従来からの要請について対応ができるようになった。(助手席リフトアップに加え、車椅子が2台搭載できる機能を追加(スロープタイプ))
- 外出の機会や地域の行事、イベントへの参加の機会を増やすなど、利用者ひとりひとりを大切に介護サービスをより充実して提供できるようになり、利用者の生きがいがいづくりや意欲向上に貢献できるようになった。
- 車椅子利用者をワゴン車を利用し送迎する場合、介助者は、利用者を抱えステップを上り下りし座席へ移乗させなくてはならず、介助者の肉体的負担はかなり大きいですが、今回購入した助手席リフトアップ車であれば、車椅子から助手席へ横への移乗となり、介助者への肉体的負担がかなり軽減された。
- 助手席リフトアップ車で、車いす使用の障害者も車の最前列に乗ることができ、車に乗ることが好きな障害者は、小さな幸せを感じている。



## 2. 近年の補助概況

### (5) 近年の福祉車両整備補助事業の成果

#### 【 移送車2(車いす使用 スロープ式) 】



#### 【利用者の声】

- 車椅子のまま乗ることができて快適。乗り心地がたいそう良かった。
- 以前は、沢山の方の送迎と一緒に乗車していかないといけない日もあったが、今はそれもなくなっただいぶ楽になった。
- 今まで遠くに行く機会がなかったが、車椅子ごと乗車できるため、ドライブする機会が増えて楽しい。

#### 【利用者家族の声】

- 家の前の道が狭いので、小さな車(当該車両)で来てもらえると、すごく助かる。これまでは送迎車が家の前まで入って来られなかったけれど、玄関先まで来てもらえるようになって助かる。
- 少し早く迎えに来てほしい時など、以前までは施設まで送っていかないといけない事があったが、今は対応してもらえるので助かる。
- 乗り心地が悪いと施設送迎を嫌がるが、新車には嫌がらず乗ってくれる。

#### 【事業者の声】

- 女性職員が多い中、大型車ではなく当該車両(小型車)の導入により、送迎などでの職員の精神的な面の負担の軽減につなげることができた。
- 福祉車両がなかったときに比べ、車椅子利用の利用者が外に行く機会が増え施設内でも笑顔が増えた。
- 福祉車両がないときは、福祉タクシーを呼ぶか、男性職員が利用者を車椅子から車の座席に移動し、車椅子をトランクに収納していたが福祉車両を導入してからは男性職員でなくても乗車させることができるので多数の職員が担当でき送迎やドライブ、通院の際でも気軽に外出できるようになった。
- 気持ちよくショートステイを利用してもらうには、一番最初の工程である「お迎え」が大切となり、利用者がショートステイへの外出を嫌がられると、介護者(家族等)も心苦しくなってしまうが、機嫌よくショートステイへ来てもらえる。

## 2. 近年の補助概況

### (5) 近年の福祉車両整備補助事業の成果

#### 【 移送車3(車いす使用 リフト式) 】



導入した車両で  
辛ほりにお出かけ



#### 【利用者の声】

- 地域的に舗装されてないところもあり道が良くないが、振動も少なく自宅からサービスまでの道のりが楽に通えて、ドライブを楽しめている。以前は、沢山の方の送迎と一緒に乗車していかないといけない日もあったが、今はそれもなくなっただいぶ楽になった。
- 外出する機会が多くなったので、楽しみまた1つ増えた。また、実際に乗車すると、室内空間が広く乗り心地も良いので、長距離の外出行事でも疲れなかった。
- 以前の車に比べリフトを使っでの乗降が楽になった。また、仲間が大勢乗れてうれしい。

#### 【利用者家族の声】

- 外出する機会も増え、本人も参加することをとても楽しみにしている。
- 車両がコンパクトなので我が家に向かう狭い路地にも入ってきてもらいやすく助かる。
- 施設に通うのを楽しみにしているので毎日通わせたいが、毎日の自力での送り迎えは大変で用事がある時は休むことになってしまうため、自宅まで来てもらえるのは本当に助かる。
- 車いすを利用する子供たちが、安心して通所できるようになり、また地域との交流も深まっているとの話を聞き、嬉しく思う。更に地域とのかかわりを深めてもらい、子供たちへの理解が深まってくれることを願っている。

#### 【事業者の声】

- 送迎先の病院や他施設の職員等から、JKAの補助事業のことについて度々聞かれることがあった。
- 福祉タクシーや有償移送サービス等があるが、とりわけ保護者による送迎は負担感が強く、家庭都合により通所状況に影響が出る。しかし今回の補助事業により施設による送迎にて通所することができ、安定した通所、社会参加につながっている。
- 重度化・高齢化に伴い、既存疾患の悪化や障害の進行等で通院回数が年々増加していた中、助成車両を導入したことで素早い対応ができ入院までに至らないケースが多々あった。
- 高齢者が生まれ育った地域で、安心・安全に日常生活を送れるよう、外出活動等の楽しい企画ができ、楽しい思い出を職員とともにつくってもらえた。

## 2. 近年の補助概況

### (5) 近年の福祉車両整備補助事業の成果

#### 【 移送車4(送迎用乗用車) 】



#### 【利用者の声】

- 職場実習や園外活動の機会が増えて、とてもやる気が出る。
- 乗り心地も良く今まで以上に外出が楽しくなった。
- 綺麗で広くて、みんなで出かけることが出来て嬉しい。車中ではみんなでお喋りしながら出かけている。いろいろなところに行けて楽しい。

#### 【利用者家族の声】

- 新しい車両がJKA補助事業で導入され、日々の活動の幅も広がり、作業活動にも笑顔で参加でき、保護者としてとても嬉しく安心している。
- 様々な活動に参加させていただいているが、安心して送り出せることが出来る。
- 重度知的障害と自閉症を合わせ持つ息子は言葉がほとんどなく、快、不快をうまく伝えられない為、毎日の送迎車で移動にはより安全で快適な環境が求められるが、快適な送迎時間が過ごせていてうれしい限り。
- 自宅前まで迎えに来てくれてありがたい。
- JKAの事業に対して、関心が深まった。
- 補助をいただいている車両があることでしっかりした施設だと感じる事が出来た。

#### 【事業者の声】

- 施設の立地から送迎が必須であるが、福祉車両による送迎により家族の手を借りずに利用者自身の力で通うことが可能となる。そのことが利用者の自信にもつながり、自立の一助となっている。
- 人手が不足している地域農家で除草や収穫の手伝いに少人数で出向くことができ、作業を通じた関わりが地域住民の障害を持つ方々への理解に繋がっている。
- 交通事情が悪いため車での移動が中心であるが、買い物や映画、水族館、美術館、科学館などの外出、球技大会やレクレーション大会、野球観戦、キャンプ、海水浴、1年を通して様々な行事があり、皆で出かけるのを楽しみにしている。
- 以前は乗車人数の少ない送迎車両であり、且つ個人所有の車を使用していたが、今回、利用者新規受け入れを行うことができ、待機者の軽減を図ることが出来た。

## 2. 近年の補助概況

### (5) 近年の福祉車両整備補助事業の成果

#### 【 訪問入浴車 】



#### 【利用者の声】

- 設備が一新されて、気持ちよく入浴できる。
- 車の故障で入浴がキャンセルされなくなったことが一番うれしい

#### 【利用者家族の声】

- 小型の入浴車となったことで、住宅の側まで車が入り、道路に車を止めなくてよくなったことはありがたい。
- 訪問入浴サービスがあり助かっている。

#### 【事業者の声】

- 新しい車両は浴槽等のサイズは同一ながらも、車両のサイズがコンパクトになっており、幅の狭い場所等への進入も以前より可能となり、より多くの地域へサービス提供ができるようになった。
- 新しい車両になり周知活動をしたところ、訪問入浴サービス自体を知らなかった方にサービスの説明・体験等ができた。
- 故障や機器トラブルのリスクが大幅に減少し、安全で安心できるサービスの提供が出来る。故障等の減少に伴い修理や補修にかかる支出の減少にも繋がっており車両を維持するうえでのコスト削減にも繋がっている。
- 分割式の浴槽に変更できたことで、介護スタッフの腰痛予防につながっている。

### 3. 平成27年度の評価について【福祉車両】

#### (1) 自己評価結果(総合評価点)

注:1つの補助事業を複数に分けて評価しているケースがあるため、自己評価結果の合計数と事業実施件数は一致しない。

公益事業振興補助事業		総合評価点						
事業区分	対象事業	合計	5	4	3	2	1	
公益の増進	重点事業	自転車(強化指定選手遠征)	2		2			
		自転車・モーターサイクル	50	10	33	7		
		社会環境	10	3	5	2		
		国際交流	8	2	6			
		計	70	15	46	9	0	0
			100.0%	21.4%	65.7%	12.9%	0.0%	0.0%
	一般事業	スポーツ	19	1	14	4		
		医療・公衆衛生	29		23	6		
		文教・社会環境	34	3	25	6		
		計	82	4	62	16	0	0
		100.0%	4.9%	75.6%	19.5%	0.0%	0.0%	
新世紀未来創造プロジェクト		12	2	10	0	0	0	
		100.0%	16.7%	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
合計		164	21	118	25	0	0	
		100.0%	12.8%	72.0%	15.2%	0.0%	0.0%	
社会福祉の増進	児童	10	1	5	4			
	高齢者	4	2	2				
	障害者	42	10	27	5			
	地域共生型社会支援	1		1				
	幸せに暮らせる社会を創るための活動や車両・機器等の整備	福祉車両	56	1	37	18		
		福祉機器	24		16	8		
		施設補修	7		6	1		
		社会福祉事業	31	1	28	1	1	
	合計	175	15	122	37	1	0	
			100.0%	8.6%	69.7%	21.1%	0.6%	0.0%
東日本大震災復興支援		8	4	3	1	0	0	
		100.0%	50.0%	37.5%	12.5%	0.0%	0.0%	
公益事業振興補助事業 合計		347	40	243	63	1	0	
		100.0%	11.5%	70.0%	18.2%	0.3%	0.0%	

【福祉車両 自己評価結果の詳細】

福祉車両【種類】	総合評価点					
	合計	5	4	3	2	1
移送車1	2		1	1		
移送車2	12	1	7	4		
移送車3	24		18	6		
移送車4	14		9	5		
訪問入浴車	4		2	2		
合計	56	1	37	18		
	100%	1.8%	66.1%	32.1%		

☆公益の全体平均に比べて、自己評価「5」の割合が少なく、「3」の割合が多い。



《理由》

- ・情報発信の遅れ
- ・導入の遅れ
- ・利用者等が目標に届かなかった etc...

### 3. 平成27年度の評価について【福祉車両】

#### (2) 事業の促進・阻害要因(自己分析)

#### ◆促進要因 集計表

	事業 合計数	促進要因															特 になし	
		内部要因							外部要因									
		(1) 経費	(2) 実施体制(人員、関係機 関の協力等の確保)	(3) 資材調達(事業実施に必 要な物資等の確保)	(4) 実施期間(事業終了まで に要する期間)	(5) 事業運営のノウハウ (進捗管理、資金管理等)	(6) 設計仕様の変更 (主に建築)	(7) その他	(8) 受益者の規模・ニーズ	(9) 実施体制以外の団体 等の協力・支援	(10) 関連法制度の変更	(11) 利害関係者受益者以 外の要望への対応	(12) 災害の発生 (地震、洪水等)	(13) 同様の技術開発	(14) 競合するサービス・事 業の出現	(15) その他		
福祉車両	56	4	5	1	5	0	0	2	5	1	0	0	0	0	0	0	1	24
		7.1%	8.9%	1.8%	8.9%	0.0%	0.0%	3.6%	8.9%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	42.9%
公益事業振興補助事業 小計	347	48	108	15	21	41	4	8	77	79	9	8	7	1	8	8	75	
		13.8%	31.1%	4.3%	6.1%	11.8%	1.2%	2.3%	22.2%	22.8%	2.6%	2.3%	2.0%	0.3%	2.3%	2.3%	21.6%	
補助事業全体 合計	544	83	170	26	44	63	5	13	131	112	10	10	7	3	10	11	123	
		15.3%	31.3%	4.8%	8.1%	11.6%	0.9%	2.4%	24.1%	20.6%	1.8%	1.8%	1.3%	0.6%	1.8%	2.0%	22.6%	

#### \* 傾向

福祉車両は他の事業区分に比べて、  
「特になし」の割合が高い。

#### 「促進要因」の具体的内容(主なもの)

- (1) 経 費
  - ・入札により、当初予定価格より減額できた。
- (2) 実施体制
  - ・運転者が限定されなくなったことにより、送迎業務における人員体制にゆとりができた。
- (4) 実施期間
  - ・各準備が順調に進み、計画より早く車両の納入が完了した。
- (8) 受益者の規模・ニーズ
  - ・行楽ドライブ等を実施し、入居者に大変喜ばれた。
  - ・送迎環境が整い、安心・安全・快適に送迎が行えるようになった。

### 3. 平成27年度の評価について【福祉車両】

#### (2) 事業の促進・阻害要因(自己分析)

#### ◆ 阻害要因 集計表

	事業 合計数	阻 害 要 因															特 になし
		内部要因							外部要因								
		(1) 経費	(2) 実施体制 (人員・関係 機関の協力等の確保)	(3) 資材調達 (事業実施に 必要な物資等の確保)	(4) 実施期間 (事業終了ま でに要する期間)	(5) 進捗管理 (資金管理 等)	(6) 事業運営 (ノウハウ 等)	(7) 設計仕様 (変更 等)	(8) その他	(9) 受益者の 規模・一 人あたり の負担	(10) 実施体制 以外の団 体の協力・ 支援	(11) 関連法 制度の変 更	(12) 利害関 係者(受 益者 以外)の 要望への 対応	(13) 災害の 発生 (地震・ 洪水等)	(14) 同様の 技術開 発	(15) 競争する 事業者の 出現	
福祉車両	56	2 3.6%	6 10.7%	0 0.0%	5 8.9%	2 3.6%	0 0.0%	5 8.9%	2 3.6%	0 0.0%	1 1.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 3.6%	24 42.9%
公益事業振興補助事業 小計	347	58 16.7%	61 17.6%	9 2.6%	32 9.2%	29 8.4%	2 0.6%	24 6.9%	18 5.2%	11 3.2%	4 1.2%	0 0.0%	9 2.6%	0 0.0%	13 3.7%	19 5.5%	75 21.6%
補助事業全体 合計	544	75 13.8%	72 13.2%	14 2.6%	61 11.2%	43 7.9%	4 0.7%	36 6.6%	27 5.0%	18 3.3%	4 0.7%	1 0.2%	11 2.0%	2 0.4%	14 2.6%	28 5.1%	123 22.6%

#### 「阻害要因」の具体的内容(主なもの)

#### \* 傾向

福祉車両は他の事業区分に比べて、  
「特になし」の割合が高い。

#### (2) 実施体制

- ・部署間の情報の伝達がうまくいかなかったため書類作成が遅れた。
- ・報酬単価減少等に伴う人員削減で職員の業務が多忙となり、手続きが遅れがちになった。

#### (4) 実施期間

- ・スケジュール策定の際、業務繁忙期を考慮しなかったことによる納入の遅れ。

#### 今後どう活かすか

#### (2) 実施体制

- ・最低でも月に1回、事業に関する打合せを実施する体制をつくる。
- ・今後も厳しい状況は続くと思われるが、職員一丸となって事業の推進にあたる。

#### (4) 実施期間

- ・担当者の事務量を把握した上で明確なスケジュールを策定し、事業を実施する。

## 4. 他の助成団体等との比較(福祉車両補助)

### (1) 補助対象等について

団体	対象者	種類	補助の対象となるもの	上限金額	補助率
(公財)JKA	財団法人、社団法人 社会福祉法人 更生保護法人 商工会、商工会議所 特定非営利活動法人(NPO) 私立特別支援学校を運営する学校法人 特別の法律に基づいて設立された法人	移送車1(助手席、セカンドシートリフトアップ) 移送車2(車いす仕様 スロープ式) 移送車3(車いす仕様 リフト式) 移送車4(送迎用乗用車 7~10人) 訪問入浴車	車両本体価格 特別装備 盗難防止装置 JKA指定の補助標識の表示に係る経費	315万円 (種類、クラスによって 基準単価あり)	3/4
(公財)日本財団	財団法人、社団法人 社会福祉法人 特定非営利活動法人(NPO) 地方公共団体(公営競技施行している地方公共団体を除く) 社会医療法人など非営利・公共事業を行う団体	車いす対応車(軽自動車) 車いす対応車(車いす2名) 車いす対応車(車いす4名) 送迎車(軽自動車) ※それぞれ車種の指定あり。	日本財団にて指定の装備	245万円 (車種によって助成金額の設定あり)	見積金額から車種ごとに設定している助成金額を引いた額が自己負担金
(公財)中央競馬馬主社会福祉財団	社会福祉法人 社会福祉事業を行っている公益財団法人、公益社団法人等 社会福祉事業を行っている特定非営利活動法人(NPO)	福祉車両 送迎用車両		200万円	総事業費の3/4以内
(公財)24時間テレビチャリティー委員会	財団法人、社団法人 社会福祉法人 社会福祉協議会 特定非営利活動法人(NPO) 地方公共団体 医療法人 学校法人 任意団体(非法人) ボランティア団体 (個人 ※電動車いす)	リフト付きバス スロープ付き自動車 訪問入浴車 電動車いす ※それぞれ車種の指定あり。	車両本体費用 納車登録時の登録費用 輸送費用 (贈呈後のメンテナンス費用上限10万円) ※電動車いす)		贈呈

\* JKA以外の団体については、各団体HPを参照した。

- ・日本財団 [http://www.nippon-foundation.or.jp/what/grant\\_application/programs/cars/](http://www.nippon-foundation.or.jp/what/grant_application/programs/cars/)
- ・中央競馬馬主社会福祉財団 <http://www.jra-umanushi-hukushi.or.jp/28-jyosei/28-jyosei-2>
- ・24時間テレビチャリティー委員会 <http://www.24hourtv.or.jp/welfare/detail.html>



## 4. 他の助成団体等との比較(福祉車両補助)

### (2) 補助実績について

#### 平成28年度補助実績

団体名	車の種類	台数	合計台数	金額(種類別)	合計金額
(公財)JKA	・移送車1(助手席、セカンドシートリフトアップ)	3台	49台	4,500千円	91,119千円
	・移送車2(車いす仕様 スロープ式)	5台		7,042千円	
	・移送車3(車いす仕様 リフト式)	19台		39,075千円	
	・移送車4(送迎用)	17台		25,652千円	
	・訪問入浴車	5台		14,850千円	
(公財)日本財団	・車いす対応車(軽自動車)	364台	1,283台	338,520千円	1,709,762千円
	・車いす対応車(車いす2名)	336台		704,675千円	
	・車いす対応車(車いす4名)	165台		404,250千円	
	・送迎車(軽自動車)	418台		262,317千円	
(公財)中央競馬馬主社会福祉財団	・福祉車両	52台	90台	72,320千円	123,200千円
	・送迎用車両	38台		50,880千円	
(公財)24時間テレビチャリティー委員会	・リフト付きバス	80台	191台	HPに金額掲載なしのため不明 (平成28年の寄付金総額: 887,482,001円)	
	・スロープ付き自動車	100台			
	・訪問入浴車	11台			

\* JKA以外の団体については、各団体HPを参照した。

・日本財団 [http://www.nippon-foundation.or.jp/what/grant\\_application/programs/cars/](http://www.nippon-foundation.or.jp/what/grant_application/programs/cars/)  
 ・中央競馬馬主社会福祉財団 <http://www.jra-umanushi-hukushi.or.jp/28-jyosei/28-jyosei-2>  
 ・24時間テレビチャリティー委員会 <http://www.24hourtv.or.jp/welfare/detail.html>

## 5. まとめ(今後に向けた考え方)

- 福祉車両導入により、送迎車両不足の緩和、利用者家族の送迎負担の軽減、乗り心地向上による利用者負担の軽減、外出機会の増加による利用者の楽しみの増加、利用者を抱えての動作がなくなったことなどによる事業者の身体的負担の軽減、故障の心配等がなくなったことによる利用者、事業者の精神的負担の軽減等ができています。
- 施設利用者の活動への支援や生活の質の向上のために福祉車両整備事業への補助を行う」というこの事業の目的にかなっている。
- 小型車を導入した事業者は玄関先まで送迎が可能となり、またハイエースなどの大きな車を導入した事業者は大人数の乗車が可能となり送迎の効率が上がるなど、それぞれの事業者がそれぞれ必要としている車種を導入したことによる効果がみられた。
- 他団体の動向としては大きな違いは見られないが、車種指定の団体がある中、JKAIは車種の決まりがなく、選択肢が広い。
- 各事業者が必要とする車両が導入できるよう、現在の種類は必要と思われる。
- その他、今後も福祉車両整備事業への補助を継続してほしい、という事業者からの声も多い。
- 高齢化が進むなか、福祉・介護に対する社会的ニーズは今後より一層高くなり、福祉車両に対する需要も続くと考えられる。



福祉車両整備事業については、現在の補助方針で引き続き補助を行うのがよいと思われる。